

口や砂浜にたまります。せっかく海がきれいなのにごみが目立つのは、もったいないと思います。

だから僕は、海岸清掃に取り組みます。地域の人たちと、自分たちの海である、荒浜の海をきれいにしようと思っっています。一人でも多くの人に参加してもらいたくて、友達もさそいました。これからも積極的に友達に声をかけていこうと思います。そして、荒浜にあるごみに関心をもつ人を増やしていきます。

これらのことを通して、良いところはそのまま残し、巨理町がいつそう住みよい町へ変わっていくことを僕は望みます。巨理に住む人も、観光で訪れた人も、過ごしやすいと思えるような町づくりの第一歩を、身近なところから始めていこうと思います。

ふなこの美しさを世界へ

高屋小学校6年 吉田 暖



私の夢は、世界をまたにける写真家になることです。広がる海、りりしい山なみ、にぎやかな街……私の好きな景色を写真に撮り、人々の心に残したいです。

今撮りたいと思っているのは、世界遺産になっている富士山や清水寺、姫路城はもちろんです。美しい自然やたくましい野生動物などです。また、巨理の田園風景や、楽しそうな人々の営みも撮りたいと思います。しかし、この夢はかなわないかも

しれません。それは、地球の環境が悪くなってきたからです。環境が悪くなると、動物の住みかが少なくなり、動物が減ってしまいます。

私は、五年生の時にカヌー体験とサケ稚魚放流体験をしました。その時に、ふと草むらを見ると、そこには大きなごみや家庭ごみがありました。洗濯機まで捨ててありました。通路にもごみは落ちています。たばこの吸い殻やペットボトル、空き缶などです。このような所が巨理だけでもたくさんあるとすると、日本中、世界中にはどのくらいのごみが捨ててあるのでしょうか。とても悲しく残念な気持ちになります。

人間が捨てたごみが原因で苦しんでいる野生動物の写真を見たことがあります。人間のせいでも、何もしていない生き物が傷つくのはかわいそうだなと思いましたが、見たことはない写真かもしれません。このような現状を撮って世界中にうつたえていくことも必要なのだと思います。

このまま環境が悪くなっていくと、未来には自然が消えてしまうかもしれません。美しい景色もなくなり、人々の笑顔も消えてしまうかもしれません。

そこで今、私にできることは、美しい自然を未来へつなげることです。そのために、世界中の人たちに写真を通して、日本や巨理のすばらしさを発信していきたいと思っています。

巨理の海、巨理の自然、巨理の食べ物、巨理の人々を、世界中に発信して巨理のことをたくさん知ってもら

い、巨理がもっと発展していくようにしたいです。

自然の写真だけではなく、日本の文化的な写真やにぎやかな町を世界の人に見てもらい、日本を好きな人がもっと増えてほしいです。

学校で社会の時間に貝塚のことを知りました。巨理にも貝塚があることを知って驚きました。貝塚は、食べた後の貝がらなどを捨てていた場所です。今は何でもないので、数年後、遺跡のように、歴史的に重要な場所になるかもしれません。今は小さな木が、樹齢何百年も生きて、大切な文化財になるかもしれません。そういう気持ちで、どんな場所も大切にしていきたいです。

木が生いしげる青い空の下で、子どもが楽しく遊ぶ未来。将来、そんな写真をたくさん撮ることが私の夢です。

この町と生きて、未来へ

吉田小学校6年 成瀬 杏樹



皆さんは今、何かやってみてみたいと思うことはありますか。

か。私には今、チャレンジしたいことが沢山あります。歌やダンス、スケートボードにドラムなど、考えるときがあります。

二〇〇七年七月二十五日。私は母のお腹の中で命を落としそうになり、救急車で仙台の病院に運ばれました。すぐに緊急手術が行われ、無事に産まれてきた私の体重は、一〇七四

グラム。小さな小さな赤ちゃんでした。その時母は「生きてくれてありがとう」と心から思ったと、私が大きくなってから教えてくれました。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が起こりました。その時の私は三歳。当時の私は、母に強く抱きしめられていたこと、余震に怯える日々を送っていたことが記憶に残っています。そして、父方の祖父母が津波で亡くなったという現実がありました。

私は巨理町が好きです。その訳は、海と山に囲まれ、目の前には沢山の田畑が広がり、鳥たちが鳴き声を聞かせてくれる自然豊かな町だからです。そして、何より「一番好きなのは、巨理のいちごです。私の母方の祖母の実家は六十五年前からいちご農家をしています。小さい頃からよくいちごをもらって食べていました。巨理のいちごを食べている時、幸せを感じます。

「生きていくからできること。」小さな小さな赤ちゃんとして産まれてきたこと、津波で祖父母を失ったこと、大好きな巨理で育ったこと、母の優しさ、愛情。いろいろな経験が私を成長させてくれました。私の将来の夢はまだ決まっていません。ですが、誰かの支えになれる仕事をしたいと思っています。そして、亡くなった祖父母の分までいろいろなことにチャレンジしたいです。

この町に産まれ、この町で育ち、そして今この巨理に生きています。これからたくさんの人と出会って、人と人との関わりを大切にしながら、生きていきたいです。

令和が変わろう！巨理町

巨理小学校6年 西山 瑠々花



はらこめし、ほつきめし、いちごなどの名産品があり、どれもおいしい。たくさんイベントがあり、どれも楽しい。色々な伝統が受け継がれ、どれも素晴らしい。たくさんの方がいて、どの人も優しい。そんな町、「巨理町」が私は大好きです。

大好きだからこそ、「巨理町」がもっと活性化し、多くの人を知ってもらいたいと思っています。だから、いくつか案を考えました。

例えば、名産品をもっと有名にできたらいいのではないのでしょうか。私がスーパーに行ったとき、巨理のいちごが仙台いちごとして売られたり、はらこめしが巨理のものとして売られていなかったりしていました。だから巨理の知名度が低いのだと思います。たとえ売れなくても、仙台いちごをやめて、巨理のいちごとして売った方がいいと思います。また、巨理町民以外の人たちがはらこめしを見たら「なんだこれ？」と思う人が多と思うので、巨理のものと示した方がいいと思います。

ほかにも案があります。それは、単純に他の場所に住む人たちにPRすることです。そのPRの方法は三つあります。一つ目はより大きなイベントを開催することです。例えば、悠里館で本探しや展示品に触れることのできるイベント、昔の遊びを体験

できるイベントなどを開くことで悠里館の魅力を伝えるというのはどうでしょうか。悠里館の郷土資料館では夏休みにちよこつと体験コーナーがあって、昔の巨理町のことを分かりやすく学べます。また、図書館には色々な種類の本があり、大人から幼稚園や保育園の子供まで遊びに来ます。悠里館は私たちが思っている以上に素晴らしいところなのでいいと思います。二つ目は、五日町商店街にぎわいを取り戻すことです。若者向けの服屋さんやお菓子屋さんなどをつくれれば、にぎわいを取り戻せると思います。三つ目は、バーチャルキャラクターを作ってPRです。巨理町はいちごやさんかが有名なので、ファッションに取り入れたらかわいと思います。また、性格やしゃべり方は、かわいければ面白くて方言やなまりが入ると巨理らしさが出ると思います。色々なメンバーをつくったり、わたりんやわたりーナの友達として登場させたりして、お気に入りのキャラクターを選んでもらいながらたくさんの人に関心をもってもらいたいです。さらに、巨理町の行事や学校のあるあるなどを取り入れた物語があると巨理町のこと

が楽しく分かってもらえると考えました。このような活動をし、巨理町を活性化させ、たくさんの人に知ってもらえればと思います。たとえ、活性化しなくても、やることに意味があるのだと思います。「令和」という新しい時代に、巨理

町が大きく変化することを私は心から願っています。町民みんなで巨理町を変えられたらいいなと私は思います。

未来の巨理町

巨理小学校6年 向山 潤



僕は、巨理町で生まれ育っています。そしてこれからもずっと

この町に住み続けたいと思っています。その理由は、巨理町は緑が多くて空気がきれいだから、そして地元の食べ物がおいしいからです。

これからの巨理町が、僕を含めてたくさんの人にとって「もっと住みやすい町」になることを願って、二つの事を考えてみました。

僕の案の一つめは、町の公共施設をできるだけバリアフリーにすることです。

以前、高齢者の方が公民館に入るときに、入り口の階段を上りづらそうにしていたのを見たことがあります。年を重ねると、ちよつとした段差でつまずくことがあるという話をよくテレビでみていたので、僕はそれが気になっていました。

また、僕のお姉ちゃんは、骨の病気で、足の骨が伸びません。そのため、急な階段や高さのある階段は上りづらくて、つらそうにしています。もし、歩くところがバリアフリーになれば、高齢な方も、足の不自由な